

✕
i 35



西哲 勒郎合爾都 肖像



右一曰亞歐堂門人新井令恭鑑

題言三則

宇田川榛齋先生博通和蘭醫書講明內科之術排玄門而入壺奧揮
 刀而割方獻類集群分以著醫範提綱已行于世但名物之所創見
 讀者眩於所見不能統領其義於是乎續撰銅版五十二圖從提綱
 所載次序歷舉形象間錄官能一符以伊呂波使圖說相照以不混
 其位置本末學者先熟讀提綱而各條每說與圖參審則目不失全象
 心究衆理矣此爲一大要鍵
 一和蘭解剖書無慮數十百家先生就其中拔萃咀普又親質於解屍
 徵於確實反覆參驗研究毫末更又苦心苦思改原圖次序正其位置
 使觀者易通曉諸藏衆器之連續機關凡視此圖者小天地之巧妙目
 擊而鑒焉
 一此銅版圖與人亞歐堂主人所鑄也主人於和蘭寫真圖及銅版之技
 鍊筆精工獨步於海內試取和蘭圖置此傍若西施毛嫱齊舞裳不
 知孰伯仲唯覺此圖切姿特出其右耳當時文明之盛工藝之妙一
 于此世又以藝夏歷倒外土者自不乏其人嗚呼珍奇不假於異邦而
 獨濟其用可謂昊天眷顧之賜也

文化戊辰之春三月 門人加州藤井俊 方亭謹記



富士川文庫 2422

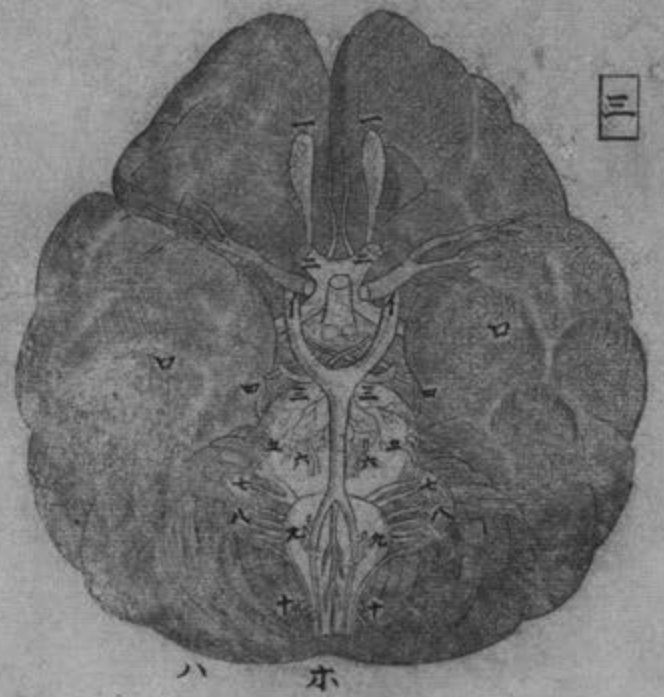
一



二



三



イ 前腦上面

○第一圖 鋸截去腦蓋剝腦膜見腦及鎌狀管

ロ 鎌狀管

左右鎖骨下靜血脈各

生一支其支從頸兩側入腦蓋內謂之內行頸靜血脈而於後腦兩側相會于其上際之正中謂之側管至此爲一管直行腦表入額骨內之雞冠骨謂之鎌狀管此爲腦中靜血脈之幹其支彌蔓腦承腦動血脈之血湊輸于幹管下行鎖骨下靜血脈歸于心

ハ 後腦上面

ニ 鎖骨下動靜二血脈上行處

ホ 鎌狀管支別

○第二圖 鋸截去腦蓋剝腦膜扁截前腦見黑白二髓

イ 前腦上面

ロ 淡黑髓

ハ 所剝腦膜

ホ 所剝頭皮

○第三圖 去腦蓋出全腦翻之見下面所起十對神經及腦動血脈

一 至十腦神經十對

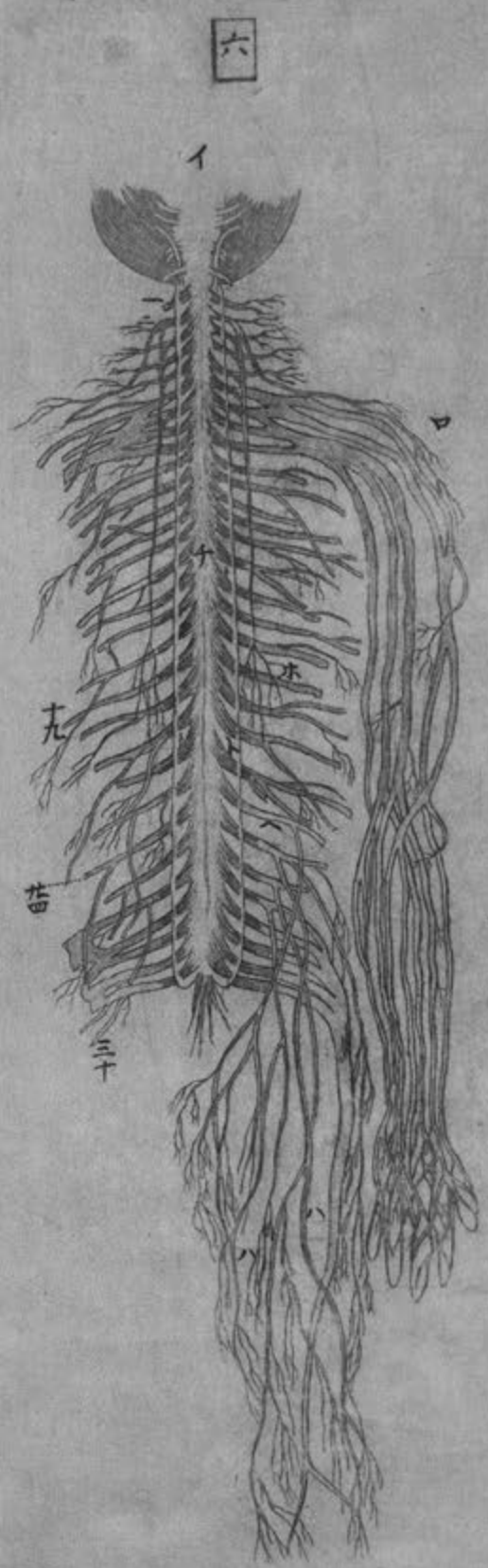
イ 腦動血脈 左右鎖骨下動血脈各

生一支其支從頸兩側入腦蓋內謂之內行頸動血脈而於後腦兩側中謂之腦動血脈此爲腦中動血脈之幹其支彌蔓腦中

ロ 前腦下面

ハ 後腦下面

ホ 截斷腦髓與項髓連處



○第四圖 脊骨

一至七項椎骨

八至十四腰椎骨

十五前部

薦骨前部

背椎一箇後部尖起

千脊髓通處

○第五圖

去脊骨見脊髓被膜者

○第六圖

起神經各穿膜外在兩側者

一至七項椎七對

八至十四腰椎五對

十五後腦

足神經

一支循行陰具

十脊髓

八至十九背椎骨

脊骨後部正中尖起

脊骨每椎兩側有孔神經由此出

尾骶骨

兩側尖起

前部

去脊骨見

脊髓被膜者

脊髓神經三十對約截兩側之蔓延

剝脊髓膜開之兩側約截脊髓所對

剝脊髓

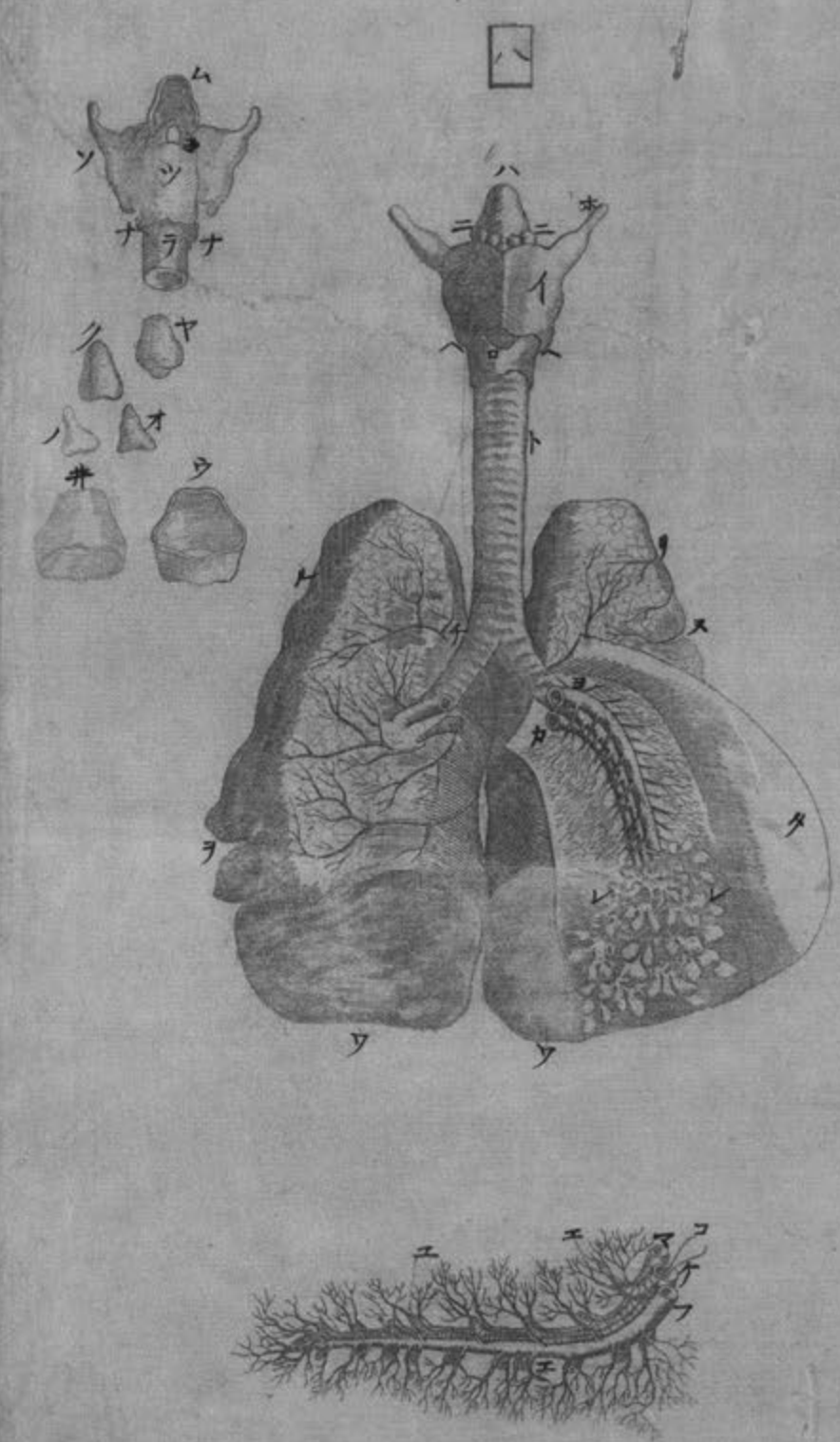
八至十九背椎十二對

十五至三十薦骨六對

手神經

橫膈神經

所剝脊髓膜



○第七圖 腦神經第五對以下並蔓延對肋間對神經

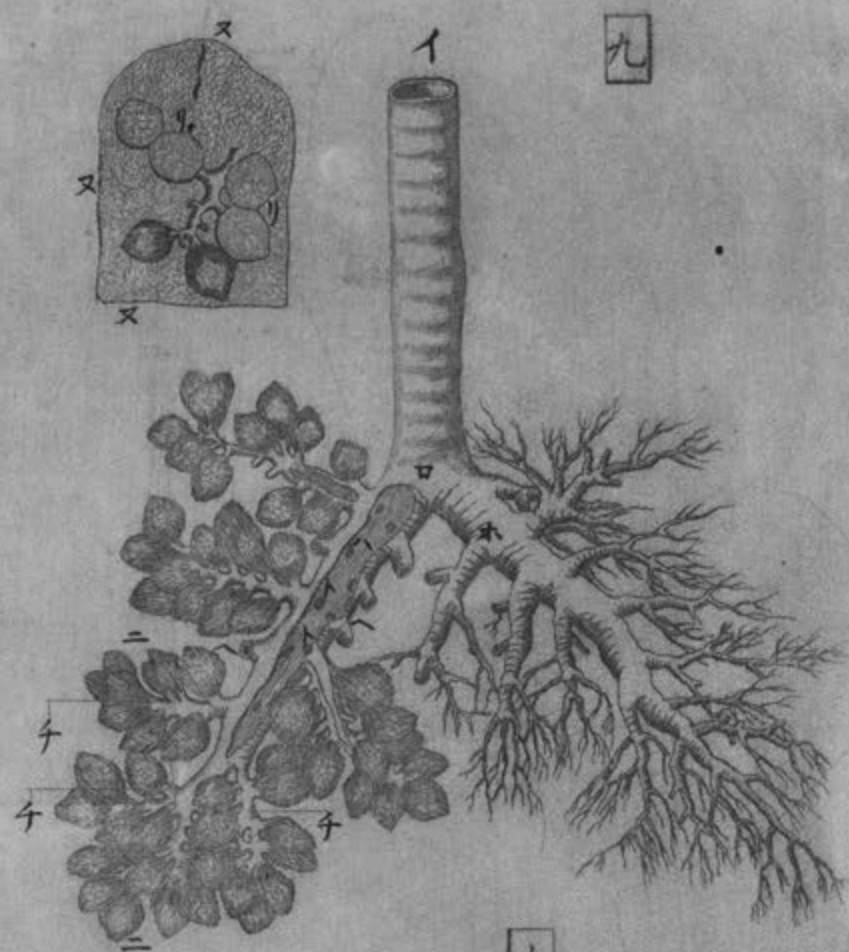
五至十腦神經第五對以下
 一 喉頭 二 氣管 三 心 四 蔓延對絡胃 五 動脈上幹 六 腎 七 脾神經 八 肝
 膽神經 九 腸間膜神經 從腸間膜循行腸 十 小腹神經 循行直腸 膀胱 子
 宮 陰具等 十一 約截脊髓神經連于肋間對之幹者 十二 橫膈神經 十三 手神經
 十四 脾神經 十五 肺神經 十六 胃管神經

○第八圖 喉頭氣管肺連屬之前面並開兩肺之合見氣管支肺血

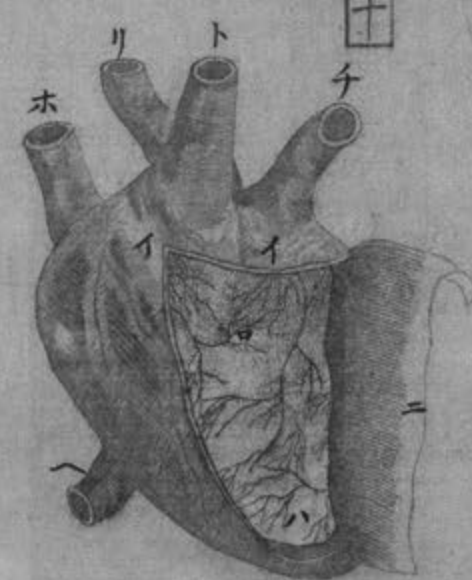
脈入于肺

一 甲狀軟骨 二 環狀軟骨 三 會厭軟骨 四 會厭軟骨腺 五 甲狀軟骨上端
 兩隅突起 六 甲狀軟骨下端兩隅突起 七 氣管 八 氣管以膜累接軟骨之
 為輪狀者至細支亦皆然是所以伸縮也但自喉頭至肺其輪後面為珎
 之狀及至肺中則為環之狀 九 氣管岐入于兩肺 十 左肺 十一 右肺 十二 裂
 右肺 十三 右肺二裂 十四 兩肺下底接橫膈處 十五 肺動脈 十六 肺靜脈 十七 左肺一裂
 剝左肺膜 十八 肺中氣管之大支攢簇肺囊為葡萄狀 十九 甲狀軟骨後面 二十 所
 環狀軟骨後面 二十一 披裂軟骨 二十二 喉頭腺常滲出津液 二十三 氣管後面為珎狀
 會厭軟骨後面 二十四 環狀軟骨前面 二十五 環狀軟骨後面 二十六 披裂軟骨
 會厭軟骨 二十七 會厭軟骨之下底有小球狀軟骨為會厭起伏之機 二十八 肺動
 脈大支 二十九 氣管肺血脈夾氣管為循行 三十 肺靜血脈大支 三十一 氣管動靜
 血脈主循行氣管榮養之 三十二 截去氣管小支

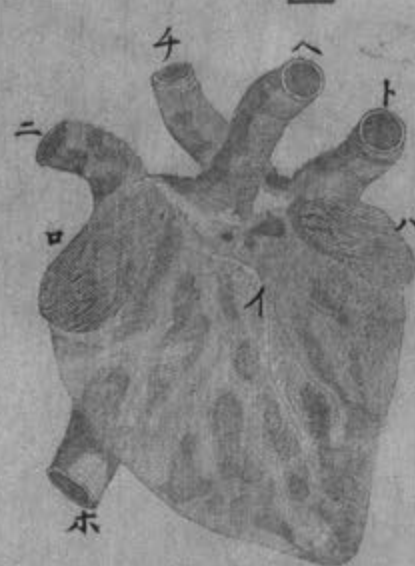
九



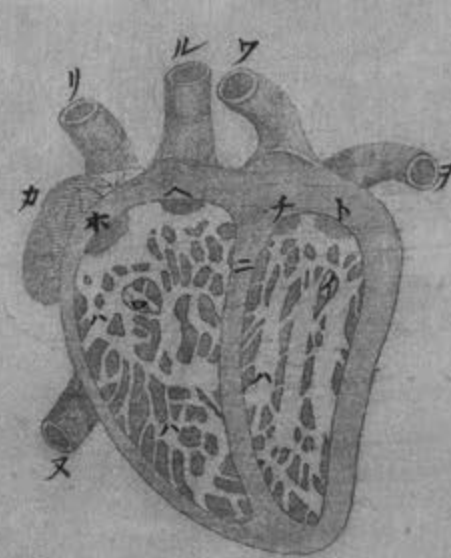
十



十一



十二



○第九圖

氣管右支攢簇肺囊爲葡萄狀左支去肺囊

〔イ〕氣管前面〔ロ〕氣管大支〔ハ〕縱割大支開之見小支通孔〔ニ〕肺囊爲葡萄狀細血絡彌蔓之此預以水銃注入水使之充脹者〔ホ〕去肺囊見小支

〔ヘ〕截去小支使肺囊易見〔ト〕小支通孔〔チ〕氣管支梢不割開以見環之累接〔リ〕割開小囊囊中復有微細囊攢簇支末〔又〕小囊間薄膜此亦細血絡

彌蔓之

○第十圖

心被心囊

〔イ〕心被心囊處〔ロ〕割開心囊見心〔ハ〕尖尾〔ニ〕所剝心囊〔ホ〕靜血脈上幹〔ヘ〕靜血脈下幹〔ト〕肺動血脈〔チ〕肺靜血脈〔リ〕動血脈上幹

○第十一圖

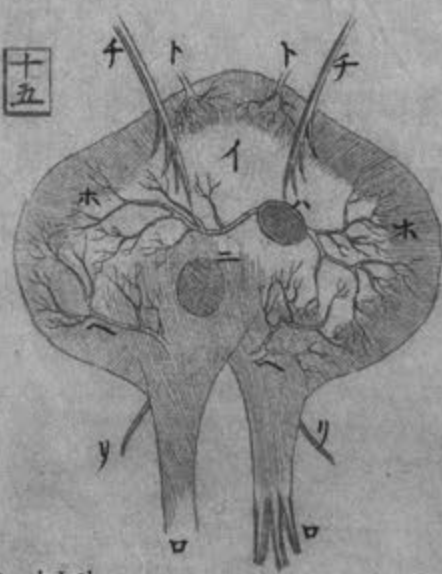
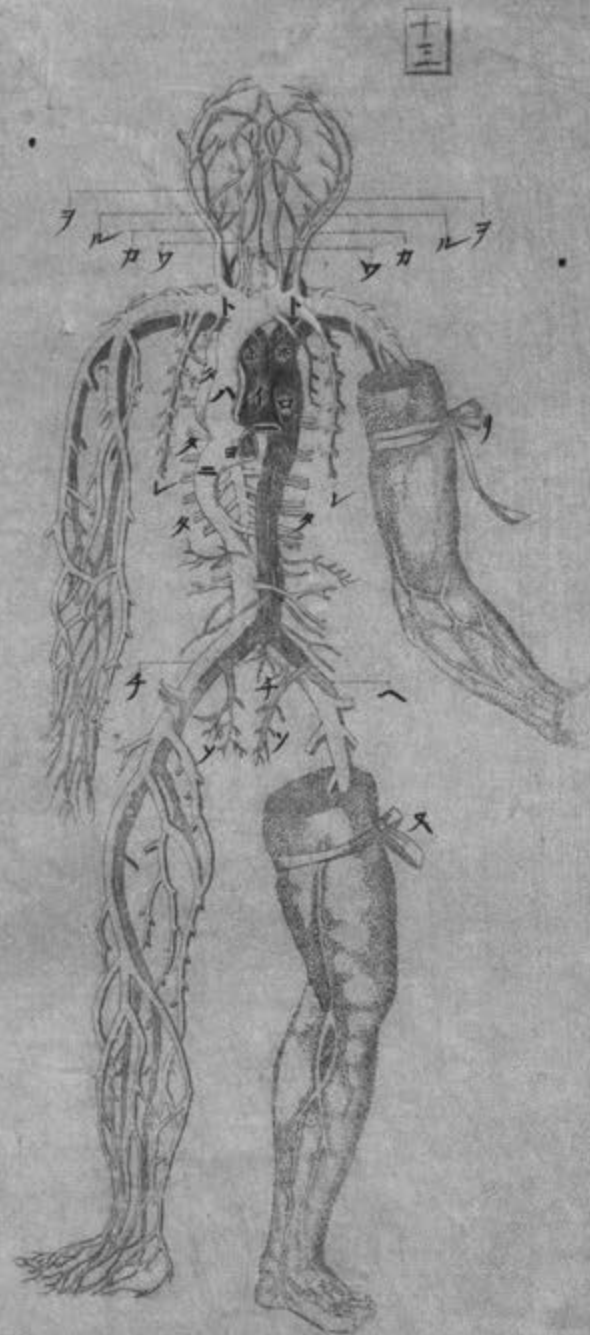
脫心囊見心及兩耳

〔イ〕心血絡彌蔓之〔ロ〕右耳大於左耳〔ハ〕左耳兩耳中空有筋條且縮張如心室右耳通靜血脈幹與右室受血於靜血脈幹納之右室左耳通靜血脈與左室受血於肺靜血脈納之左室故兩耳受血猶升量使納心室之血適其量無過不及〔ニ〕靜血脈上幹〔ホ〕靜血脈下幹〔ヘ〕肺動血脈上肺靜血脈〔チ〕動血脈上幹

○第十二圖

縱割心見心室

〔イ〕左室狹而長〔ロ〕右室廣而短〔ハ〕兩室筋條兩室雖空虛筋條錯綜其在左室者特巨心之縮張由其伸縮〔ニ〕心室中隔〔ホ〕右耳〔ヘ〕肺動血脈〔ト〕左耳〔チ〕動血脈幹〔リ〕靜血脈上幹〔又〕靜血脈下幹〔ル〕肺動血脈〔ヲ〕肺靜血脈〔ワ〕動血脈上幹〔カ〕右耳



五

○第十三圖 動靜二血脈幹支連屬並靜血脈之障膜

イ動血脈上幹截斷與心連處ロ動血脈下幹ハ靜血脈上幹ニ靜血脈

下幹ホ鎖骨下動血脈ヘ腸骨動血脈ト鎖骨下靜血脈チ腸骨靜血脈

リ緊縛臂使靜血脈起脹又緊縛股使靜血脈起脹ル内行頸動血脈上

行腦中爲腦動血脈ヲ外行頸動血脈循行頭面筋皮ワ内行頸靜血脈

上行腦中爲側管及鎌狀管カ外行頸靜血脈循行頭面筋皮ヨ動靜兩

幹截斷與心連處タ奇靜血脈起於靜血脈上幹後而生傍支於兩側沿

脊骨下行動靜幹之中間其支循行肋間筋肉此脈無對故名奇靜血脈

レ乳動血脈乳靜血脈乳汁出於乳動血脈ソ小腹動血脈小腹靜血脈

循行小腹内諸器及陰具ツ割開靜血脈見障膜子二障膜ナ脈末ラ脈本

管腎本位イ胸骨ロ肋骨之軟骨與胸骨連處ハ肋骨ニ截開肋骨

ホ肋膜被肋之裏面ヘ所剝肋膜ト皮チ左肺被胸膜膜上肺囊透見

リ縱隔膜又横膈上面ル横膜下面ヲ靜血脈幹ワ動血脈幹カ乳糜管

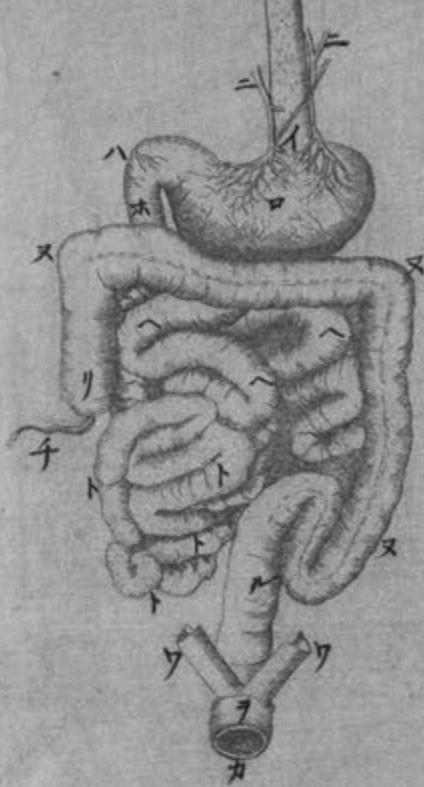
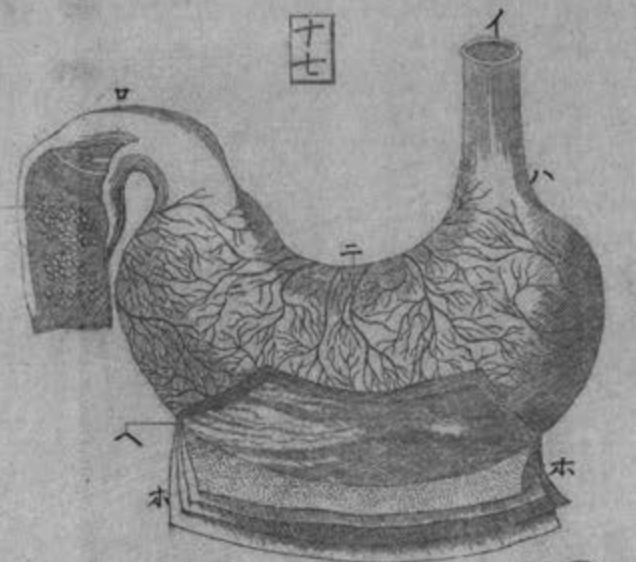
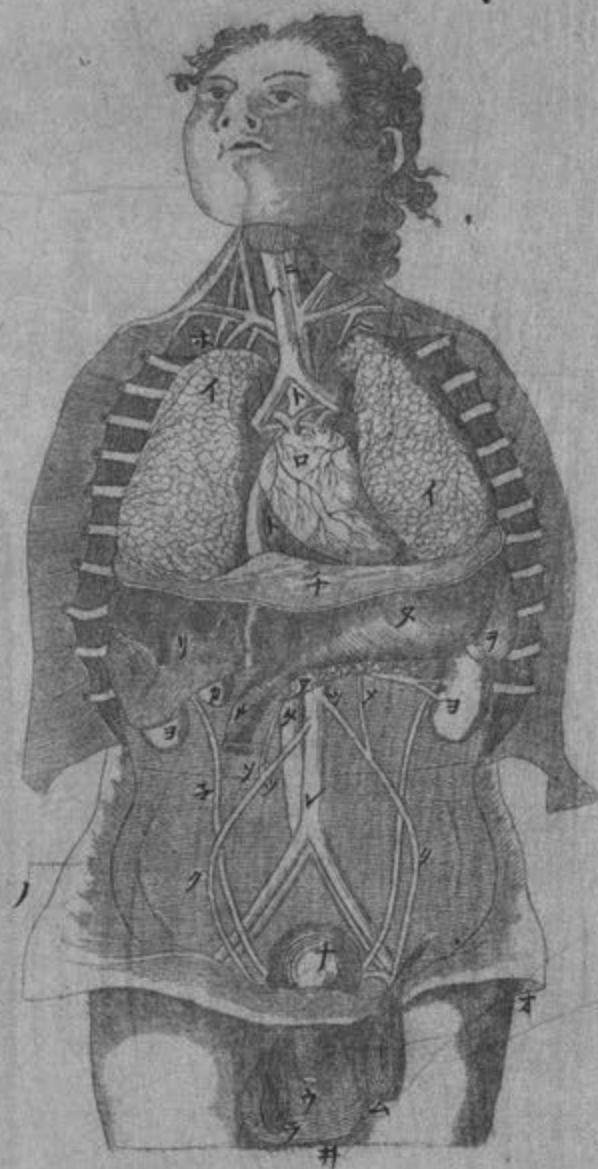
ヨ腎又胃管通孔

○第十五圖 横膈全形

イ横膈上面ロ横膈腱動血脈幹乳糜管俱沿脊骨通兩腿間故横膈

無其貫孔ハ靜血脈幹通孔ニ胃管通孔ホ横膈靜血脈ヘ横膈動血脈

ト動靜二血脈小者チ横膈神經リ自肋間對來神經支



○第十六圖

割開胸腹去網膜腸腸間膜見諸器木位

イ肺

ロ心被心囊ハ氣管

ニ胃管

ホ鎖骨下動靜二脈

ヘ乳糜管連

下左鎖骨下靜血脈

ト靜血脈下幹

ト肺動靜

血脈岐入下兩肺

チ横膈

リ肝

又胃

ル十二指腸

ワ脾

カ膽

ヨ腎右腎

在肝下

タ靜血脈下幹

レ動血脈下幹

ソ精靜血脈

ヲ精動血脈ヲ輸尿管

ラ割開陰囊見睪丸

ム抽出睪丸

見精血脈所連

ウ陰莖

井陰囊

ノ睪骨

オ睪筋包懸睪丸

ク精動血脈精靜血脈以膜合包

者

○第十七圖

胃之全形附割開胃膜見裏膜有皺襞

イ胃管

ロ下口

ハ上口

ニ血脈循胃ホ所割胃膜

ヘ裏膜皺襞

ト腸裏小腺

リ上口收閉狀

リ下口收閉狀

○第十八圖

胃管胃腸連屬

イ上口

ロ胃

ハ下口

ニ神經ホ一二指腸所始ヘ空腸

ト迴腸

チ蟲樣垂

リ盲腸

又結腸

山直腸

ヲ括肛筋

隨意括閉肛門且使大便無失禁

ワ舉肛筋

大便了牽舉肛門復之本位脫肛因此筋衰弛

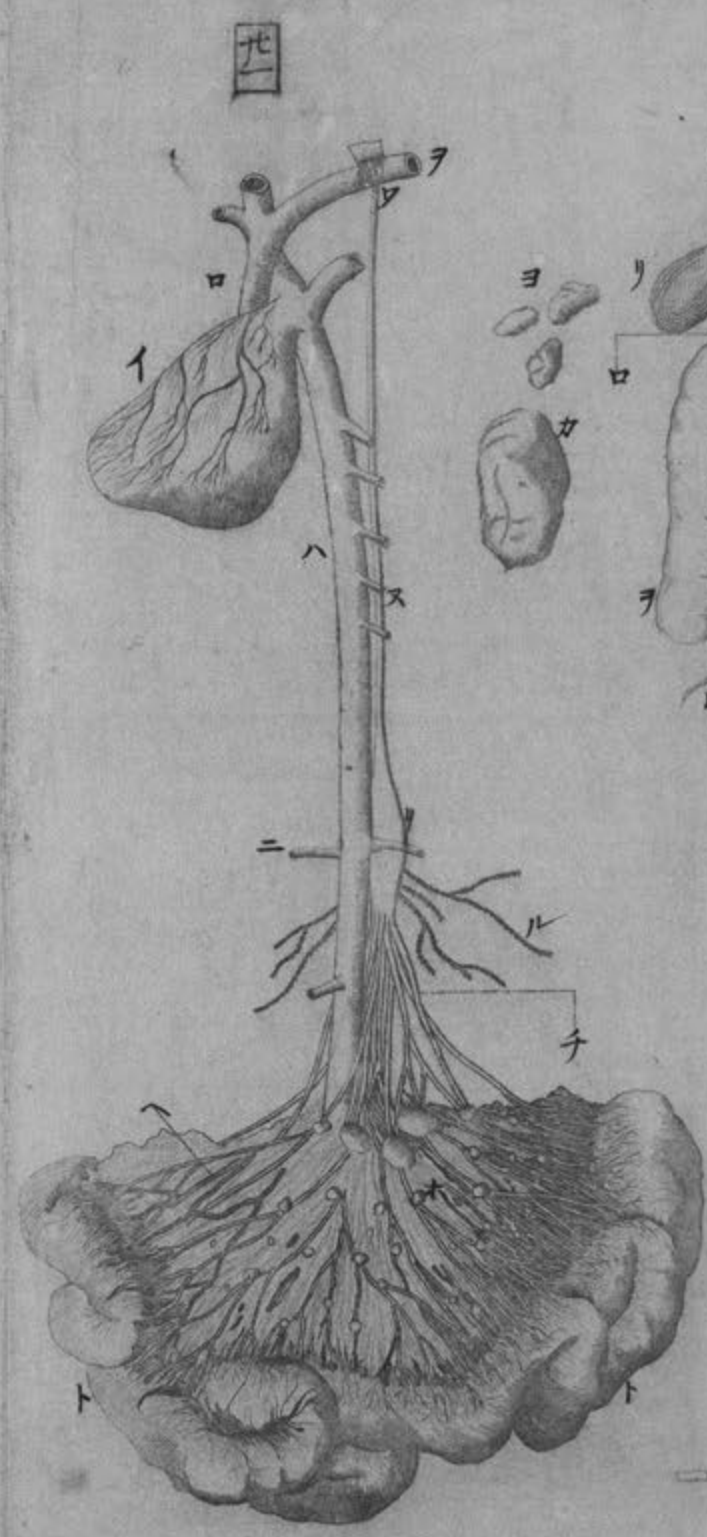
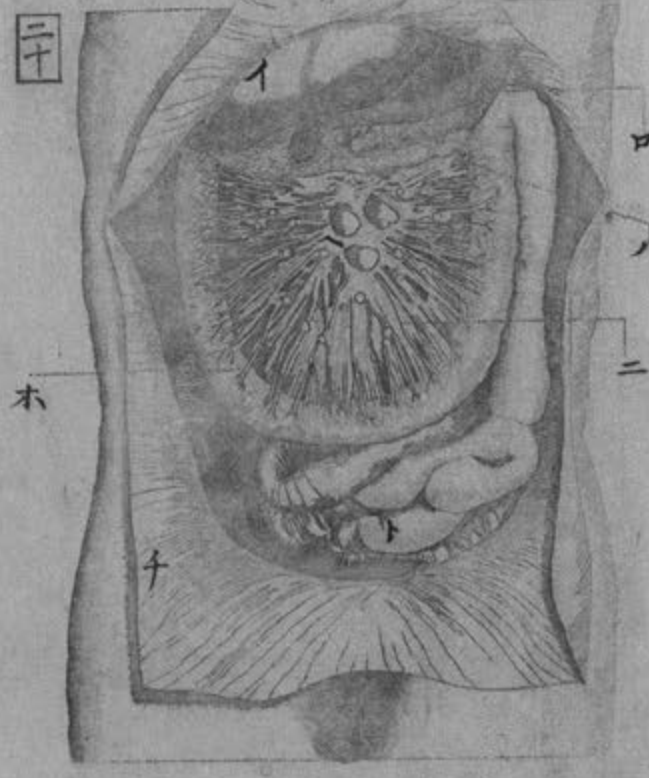
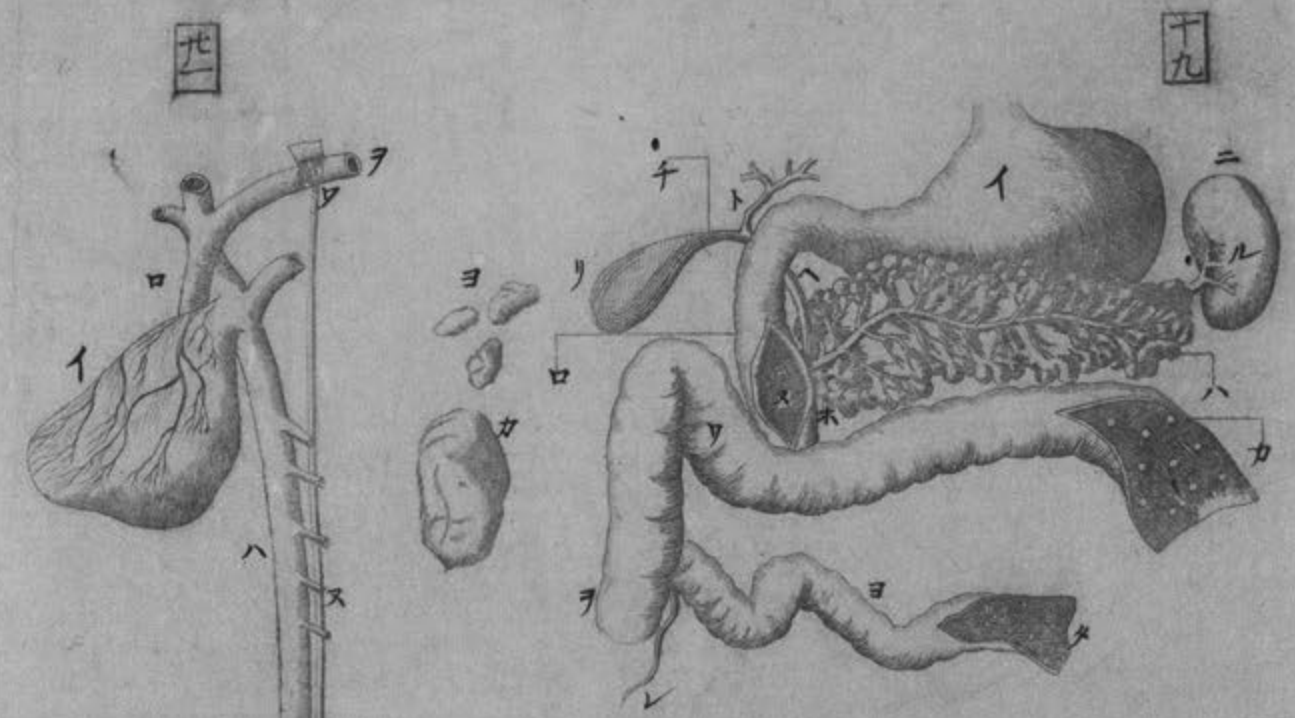
カ肛門

ヨ胃管

タ氣管

レ咽

胃管之上口凹潤處



第十九圖

胃十二指腸。脾。脾管。總管。連屬。並蟲樣垂。

イ胃

ロ割開十二指腸

ハ脾。啓展。隱胃下者見全形。

ニ脾

ホ脾管

ヘ總管

ト肝管

リ膽管

ル脾動靜二血脈

ヲ盲腸

ニ結腸。推下之見

指腸之管口

カ割開結腸見裏面小腺

レ蟲樣垂

ヨ迴腸

割開迴腸見裏面小腺

割開腹除網膜。腹膜。及前部所被腸見。腸間膜連腸。

ハ脾

三腸間膜。啓展之。

イ肝

ロ胃

ハ脾

三腸間膜。啓展之。

使易見。乳糜脈起於腸循行。腸間膜血絡亦彌蔓之。

ト迴腸。凡小腸悉連。腸間膜。

ハ脾

ホ空腸

チ所剝筋膜

腺大小散布

乳糜諸道。腸間膜連屬。

ハ脾

ホ空腸

チ所剝筋膜

○第二十一圖

口靜血脈上幹

ハ動血脈下幹

三腎血脈

イ心

口靜血脈上幹

ハ動血脈下幹

三腎血脈

ホ腸間膜。啓展者。白脈。即乳糜脈。黑脈。即神經。大小粒狀。爲腺。

口靜血脈上幹

ハ動血脈下幹

三腎血脈

ヘ血脈。血脈固。彌蔓然。爲見。乳糜脈。只示此一二。

口靜血脈上幹

ハ動血脈下幹

三腎血脈

チ乳糜脈之起於腺連于囊者

リ乳糜囊

ハ動血脈下幹

三腎血脈

ル水脈

リ乳糜囊

ハ動血脈下幹

三腎血脈

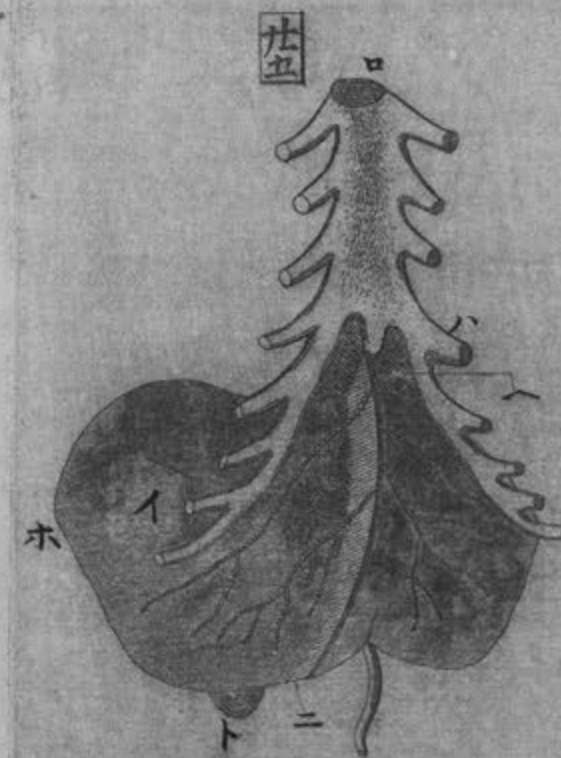
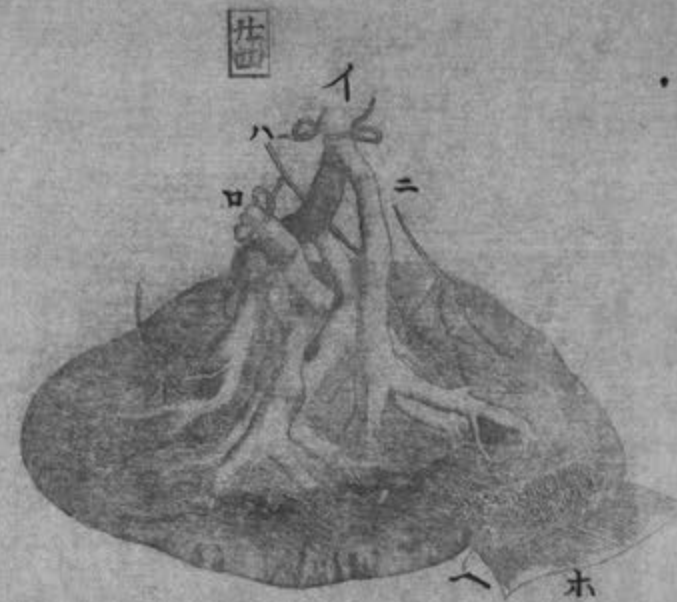
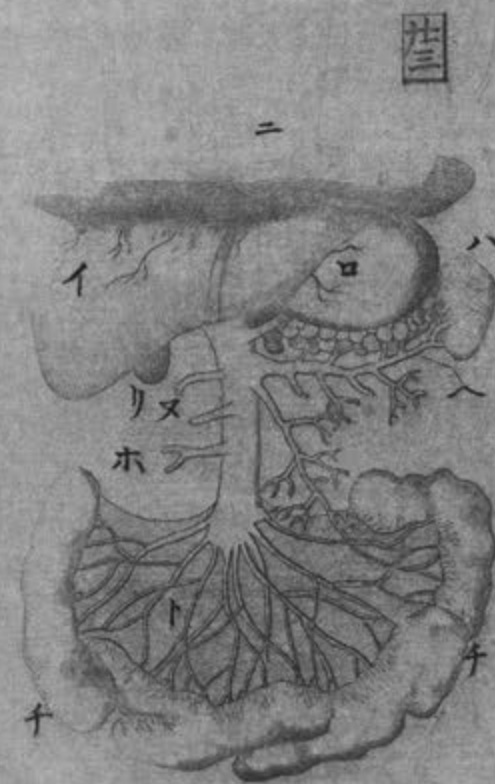
腸中。乳糜管連處之障膜

リ乳糜囊

ハ動血脈下幹

三腎血脈

カ腸間膜腺之最大者



○第二十二圖 截斷腸間膜、周圍啓展之、
 腸間膜、中央平滑、脂肪布滿、
 大腸之腸間膜、
 周圍積囊

○第二十三圖 割開腹除前部所被腸、見門脈

肝

脾

門脈幹上行、入于肝、
 門脈支起於腸、腸間膜而蔓延、
 膽懸垂肝中、
 各藏所起細支

○第二十四圖 脾

脾動血脈、
 以水鏡注入、蠟使之充脹者、
 水脈、
 脾之質、血絡與小腺錯綜、

○第二十五圖 肝前面

肝前面凸處、
 所截去肋骨、
 舉肝、

橫膈下面、

胃、
 橫膈下面、

大支起於脾、小支起於胃、脾網膜等、
 腸連腸間膜、

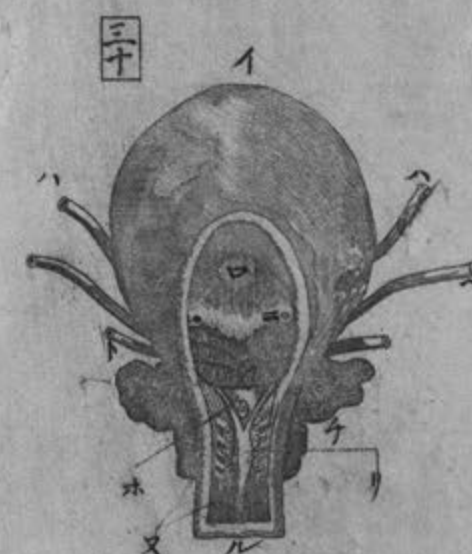
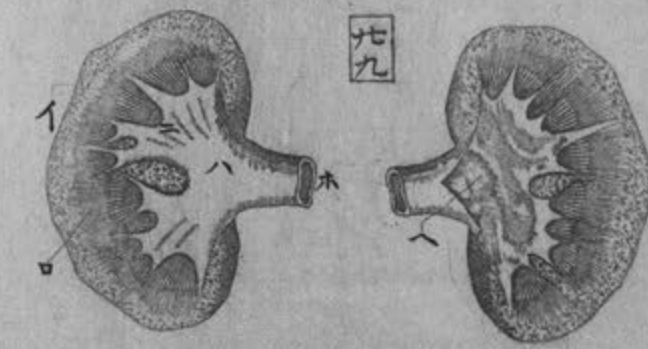
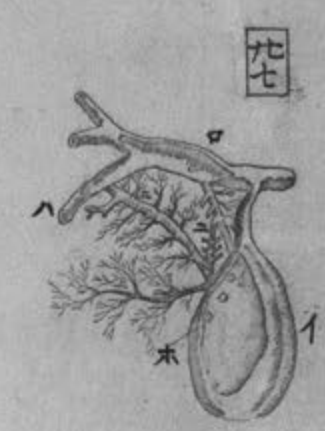
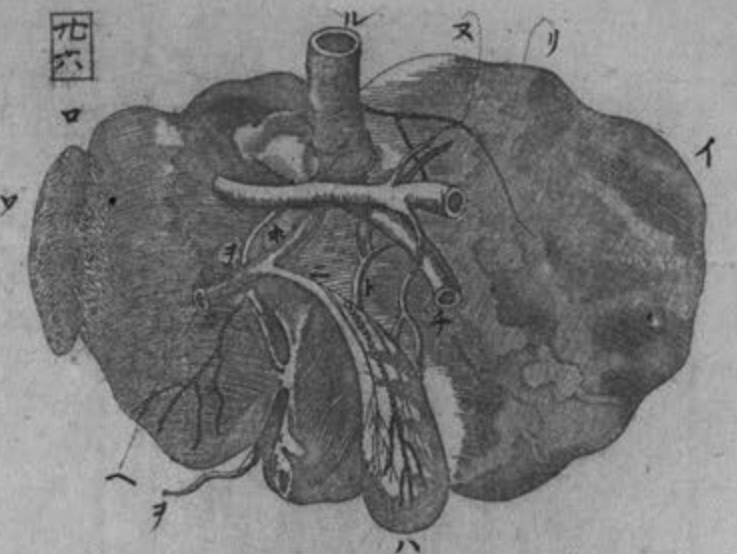
脾靜血脈、即門脈支、凡脾之動靜血脈俱、

脾神經、
 所剝膜、

胸骨、

舉肝、
 著于橫膈及鋒骨而懸、

右部、
 膽底、



○第二十六圖 肝後面凹處脫膜者 (イ) 右部 (ロ) 左部 (ハ) 膽 (ニ) 膽管

(ホ) 肝管 (ト) 總管 (チ) 門脈 (リ) 肝動血脈 (ヌ) 神經 (ル) 約截靜血脈下

幹著肝處此支蔓延肝 (ヲ) 臍靱帶連于臍 (ロ) 切肝見質 (イ) 縱割膽 (ロ) 割開肝管

○第二十七圖 割開膽見輸膽管通孔 (イ) 縱割膽 (ロ) 割開肝管

(ハ) 肝管大支 (ニ) 輸膽管入于膽 (ホ) 膽中有輸膽管之三孔

○第二十八圖 尿之諸器 (前) 男子陰具連屬 (イ) 右腎被膜者

(ロ) 左腎脫膜者 (ハ) 靜血脈下幹 (ニ) 動血脈下幹 (ホ) 腎腺水脈蔓行于腎靜

血脈 (ヘ) 左右腎動靜血脈 (ト) 輸尿管 (チ) 腎動血脈 支交于精血脈 (リ) 精

靜血脈 (ヌ) 精動血脈 (ル) 精動靜血脈合被膜者 (ヲ) 精動靜血脈脫膜者 (リ) 精

靜血脈加精動血脈屈曲錯綜 (ロ) 膀胱 (カ) 攝護 (ヨ) 右罩九被膜者 (リ) 罩九

之包膜 (レ) 舉畢筋被罩九 (ソ) 左罩九 (ツ) 上罩 (子) 輸精管 (ナ) 舉畢筋使陰莖

勃起 (ラ) 廣尿道筋使尿道廣 (ム) 所割莖皮 (ウ) 尿道 (井) 循莖背靜血脈支 (ニ)

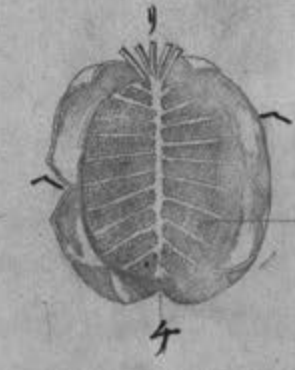
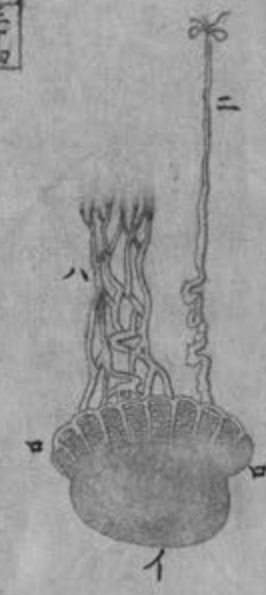
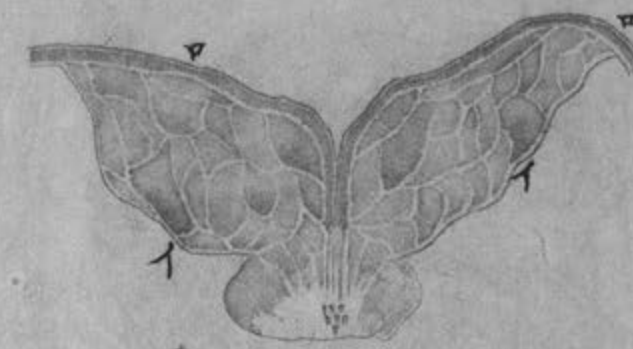
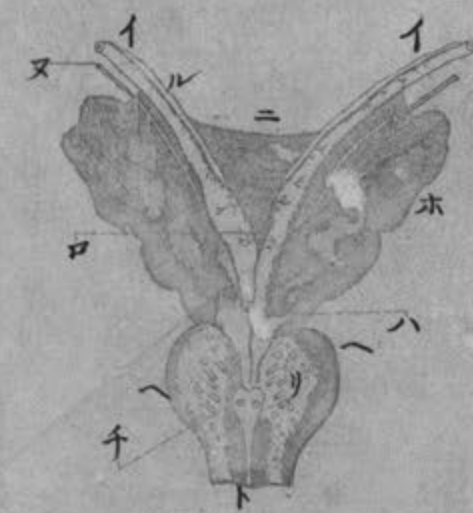
神經 (ク) 循莖背動血脈支 (ヤ) 龜頭

○第二十九圖 割腎見內質及腎盂 (イ) 腎表邊之腺 (ロ) 細管叢束

者 (ハ) 腎盂 (ニ) 腎盂支分為膜管狀各容細管叢束者 (ホ) 截斷輸尿管連腎

盂最巨處 (ヘ) 割腎盂見內空 (イ) 第三十圖 割開膀胱前面見尿道精

道 (イ) 膀胱底 (ロ) 割開膀胱前面 (ハ) 輸尿管 (ニ) 膀胱內所有輸尿管通孔



○第三十一圖 膀胱、精囊、攝護、陰莖、連屬之後面

イ 膀胱後面
ロ 輸尿管

ホ 精囊、吹之使脹者

チ 舉莖筋
ニ 廣尿道筋

○第三十二圖 除膀胱見精囊、輸精管、攝護、連屬之前面

イ 輸精管上部、管膜厚而狹小

ハ 輸精管下端、其口在精囊頸內

ホ 精囊、吹之使脹者

ト 尿道
ニ 射精管、兩口在雞冠

又 血脈行于精囊者

○第三十三圖 剖截精囊見內質
ロ 剖見輸精管
ル 副行輸精管之血脈、細支亦蔓延

イ 精囊內、隔膜區分

○第三十四圖 脫睪丸膜見上睪、睪丸、精血脈、輸精管又橫截睪丸

見細管

イ 細血絡、彌蔓睪丸

ニ 輸精管、結管末使精充脹上睪

ハ 所剝睪丸包膜

チ 細管輻湊于中央為上睪根

ハ 輸精管
ニ 攝護後面
ト 動血脈

又 龜頭

ロ 輸精管下部、管膜薄而起脹

ニ 所連著精囊之膜

ハ 割開攝護前面見尿道

ト 割護細管口

ル 副行輸精管之血脈、細支亦蔓延

イ 上睪、精充脹者
ハ 精血脈

ホ 橫截睪丸見細管疊屈為橙蟻狀

ト 細管疊屈狀

チ 細管出包膜為上睪根

ル 細管出包膜為上睪根

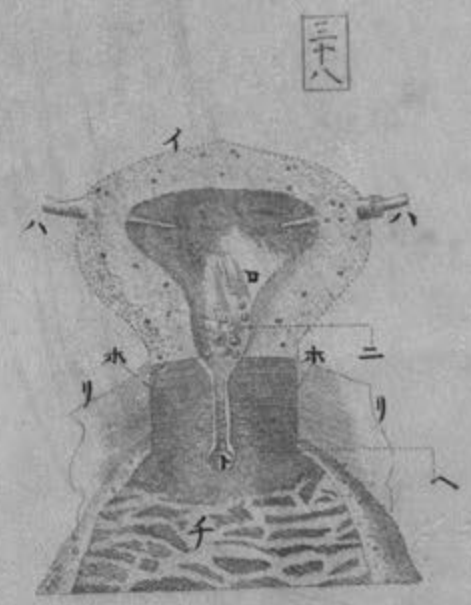
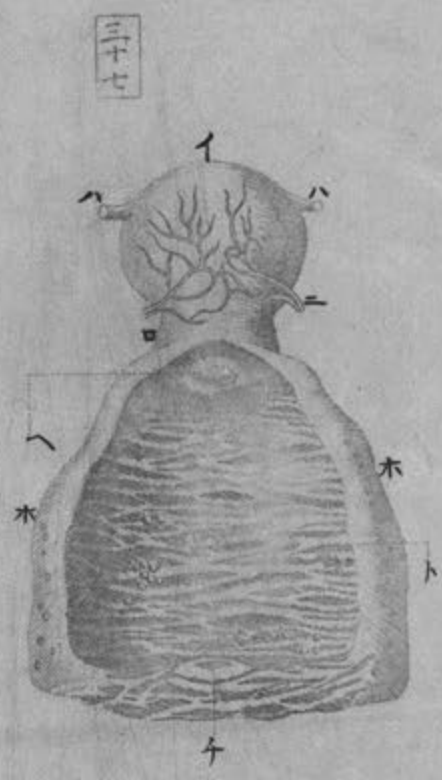
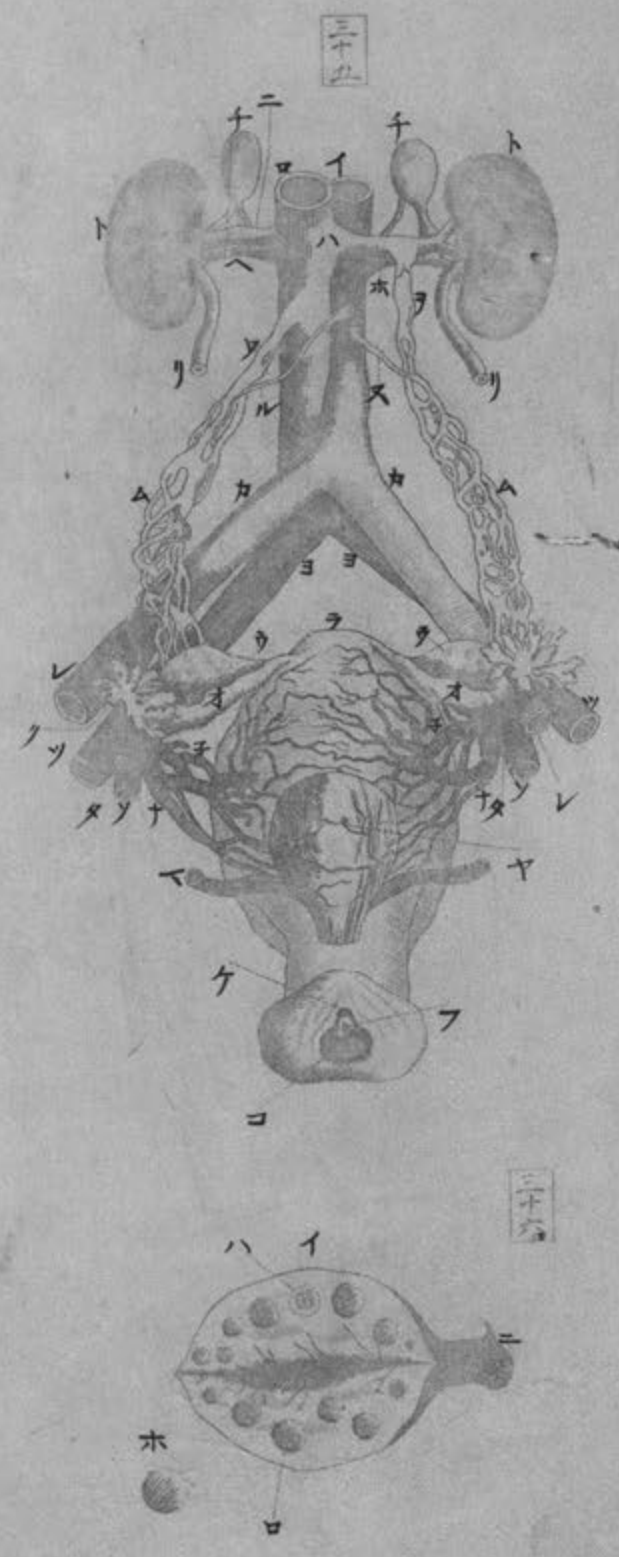
イ 上睪、精充脹者
ハ 精血脈

ホ 橫截睪丸見細管疊屈為橙蟻狀

ト 細管疊屈狀

チ 細管出包膜為上睪根

ル 細管出包膜為上睪根



○第三十五圖 婦人陰具連屬

(イ) 動血脈下幹 (ロ) 靜血脈下幹 (ハ) 左腎靜血脈 (ニ) 右腎靜血脈
 (ホ) 左腎動血脈 (ヘ) 右腎動血脈 (ト) 腎 (チ) 腎腺 (リ) 截去輸尿管
 (カ) 腸骨動血脈 (コ) 右精動血脈 (ク) 左精靜血脈 (ケ) 右精靜血脈
 (キ) 腸骨靜血脈 (ク) 腸骨動血脈 (ケ) 腸骨靜血脈 (コ) 腸骨動血脈
 (外支) (ソ) 腸骨靜血脈 (内支) (ツ) 腸骨靜血脈 (タ) 腸骨動血脈 (チ) 腸骨動血脈
 (チ) 行子宮膀胱腔之靜血脈 (子) 子宮膀胱腔之動血脈
 (才) 喇叭管本位 (シ) 絲剪 (ヤ) 膀胱 (マ) 輸尿管 (ケ) 廷孔 (フ) 尿道口 (コ) 陰門

○第三十六圖 縱割卵巢見卵

(イ) 縱割卵巢 (ロ) 卵 (ハ) 卵進出之痕 (ニ) 截斷卵巢韌帶此
 繫著卵巢于子宮者 (ホ) 卵一箇

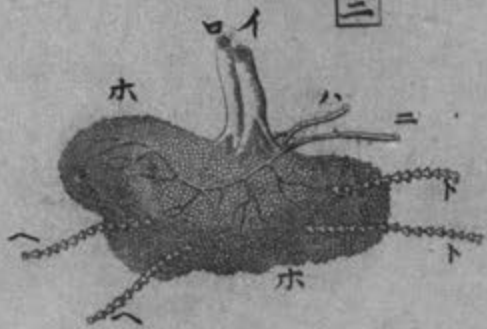
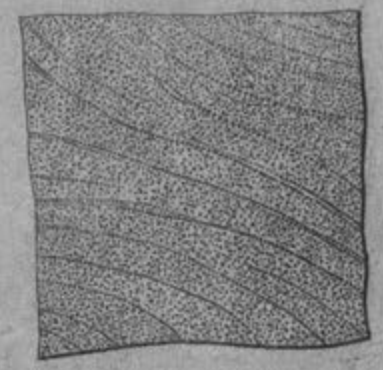
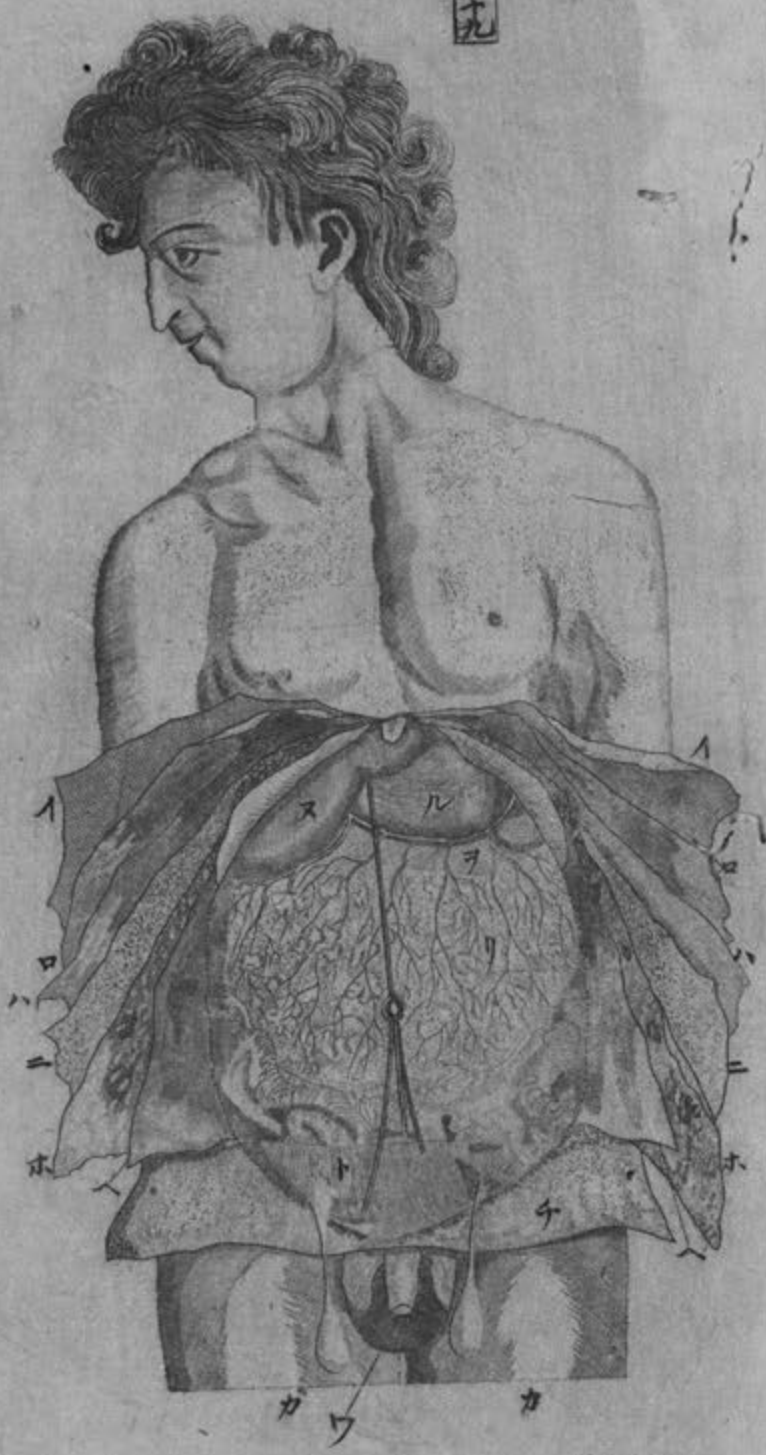
○第三十七圖 縱割腔後面見皺襞及子宮口

(イ) 子宮底 (ロ) 子宮頸 (ハ) 截喇叭管 (ニ) 血脈 (ホ) 割開腔
 (ヘ) 子宮口 (ト) 腔内皺襞 襞間小腺散布 (チ) 尿道口

○第三十八圖 剖開子宮見内空及子宮口此所圖子宮其大全與

真同

(イ) 子宮之質 (ロ) 内空 (ハ) 喇叭管截口 插入筋條見其通内空 (ニ) 子宮
 内下部之小腺 (ホ) 子宮頸 其質橫形纖維 以收閉子宮口 (ト) 子宮口 斜形
 纖維 (チ) 子宮頸内 此自子宮内通于腔之路 (ケ) 割開腔 (コ) 所剥子宮頸皮



第三十九圖

割開腹見皮膜

(イ)表被(ロ)皮(ハ)脂肪(ニ)脂膜(ホ)腹

筋(一)外腹膜(二)小腹以上見網膜(三)外腹膜(四)小腹以下未剝處腸透見

腸骨動脈行腸間出于膀胱兩側連于臍自肝連于臍自膀胱連

于臍其自肝連于臍者在胎兒之時謂之臍靜脈從臍連于胎兒也其自腸骨動脈

帶受母血於胎衣入兒臍輸于肝以致新血于胎兒也其自腸骨動脈

連于臍者在胎兒之時謂之臍動脈從臍連于胎兒也其自膀胱連于臍者

在胎兒之時謂之臍尿管道從臍連于胎衣以復舊血于母體也其自膀胱連于臍者

輸于胎衣凡此臍帶合為一而各為其用及胎兒既生無復須臍帶以故

四脈道皆萎縮變為韌帶又肝(ル)胃(ノ)結腸透見網膜上(ロ)陰莖附割開

陰囊(力)抽出罩丸(○)第四十圖顯微鏡見表被有微細汗孔及凹紋

凹紋者從皮紋被之故為此狀(○)第四十一圖顯微鏡見皮凡皮成

於微細乳頭狀乳頭狀有品(△)狀小腺也此二者整列自為

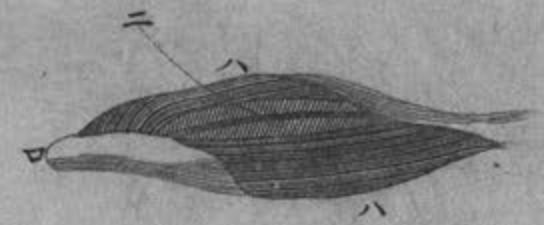
條理汗管(即其質水脈之纖維)生於乳頭狀腺(△)口乳頭狀神經凡細管蔓延

通表被受液於腺發汗及蒸氣(イ)乳頭狀腺(ニ)皮中細血絡

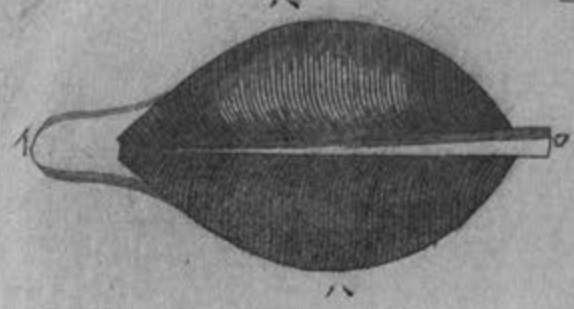
兩乳頭狀者即汗管(ハ)小毛生於乳頭狀腺(ニ)皮中細血絡(イ)靜脈支(ロ)動血

脈支(ハ)神經(ニ)送輸管(ホ)腺之質(ハ)水脈出於腺者(ト)水脈入于腺者

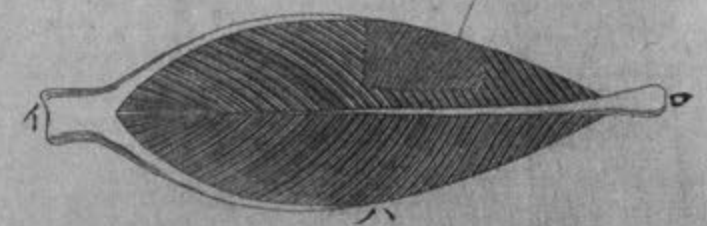
四十三



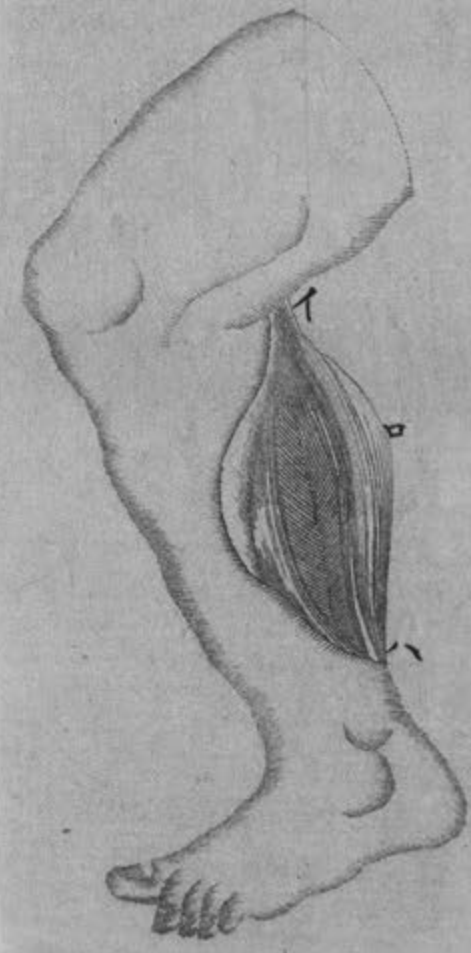
四十六



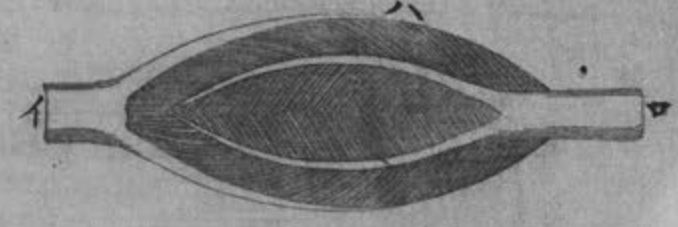
四十四



四十七



四十五



○第四十三圖 脫單筋膜見單纖維
イ筋首腱
ハ筋纖維

口筋尾腱
二開筋纖維見膜纖維

○第四十四圖 脫複筋膜見複纖維
イ筋首腱 從筋首被表
ハ筋纖維 爲兩筋腹

口筋尾腱入筋中
二少截去筋纖維見膜纖維

○第四十五圖 脫複筋膜見重複纖維
イ筋首腱
ハ筋纖維 爲四筋腹

口筋尾腱入筋中分而復合

○第四十六圖 見複筋起張牽急短促則斜形纖維更爲橫形
イ筋首腱
ハ居恒纖維弛緩斜形者緊張爲橫形

口筋尾腱

○第四十七圖 見腓筋牽舉踵
イ筋首
ハ筋尾

口筋腹

○第四十八圖 全軀諸筋

○第四十九圖 膈臂筋

イ筋首

ロ筋腹

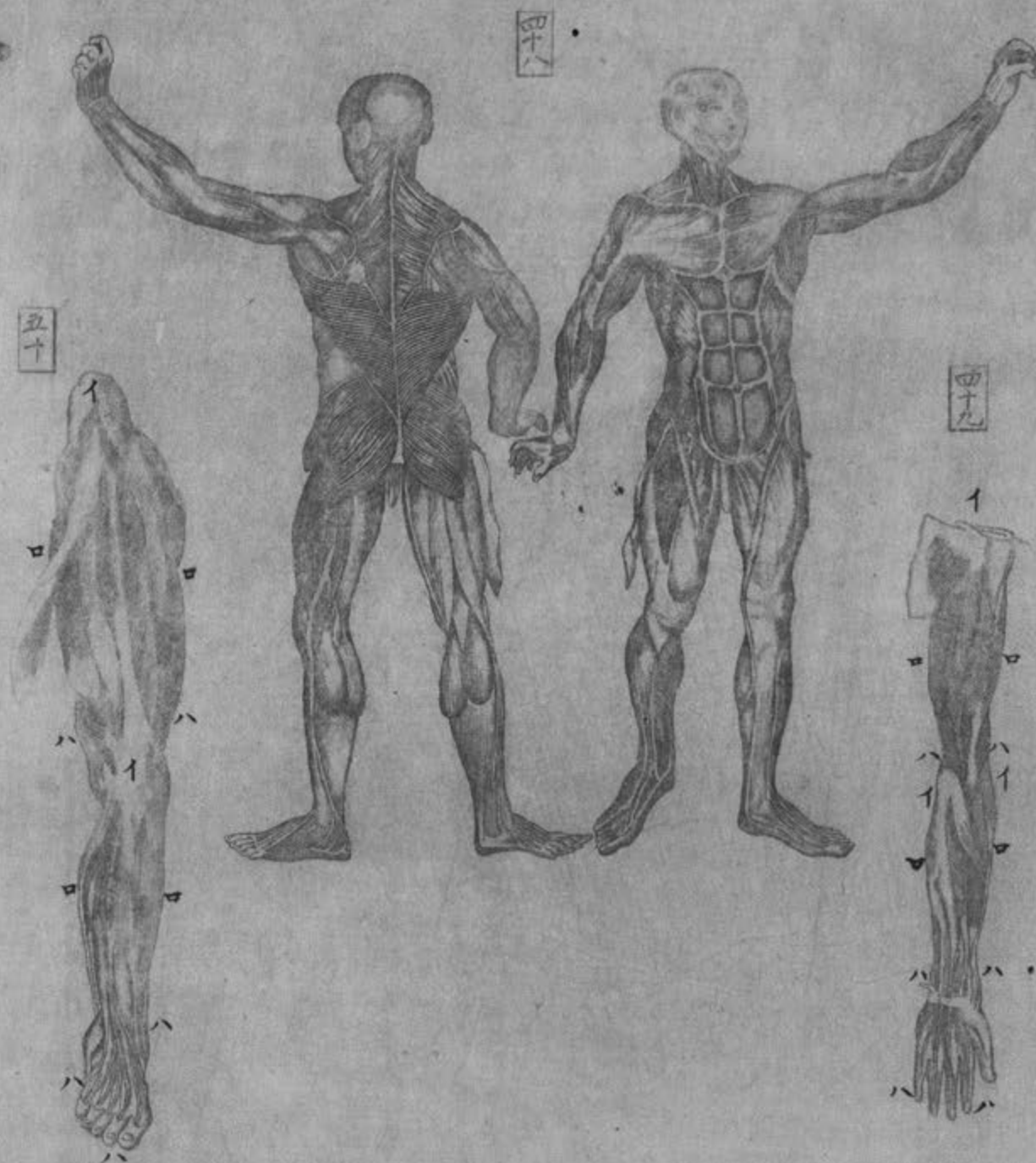
ハ筋尾

○第五十圖 髀脛筋

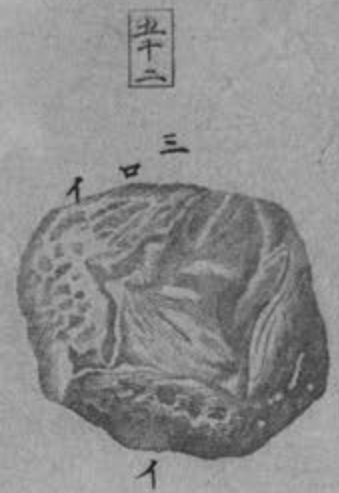
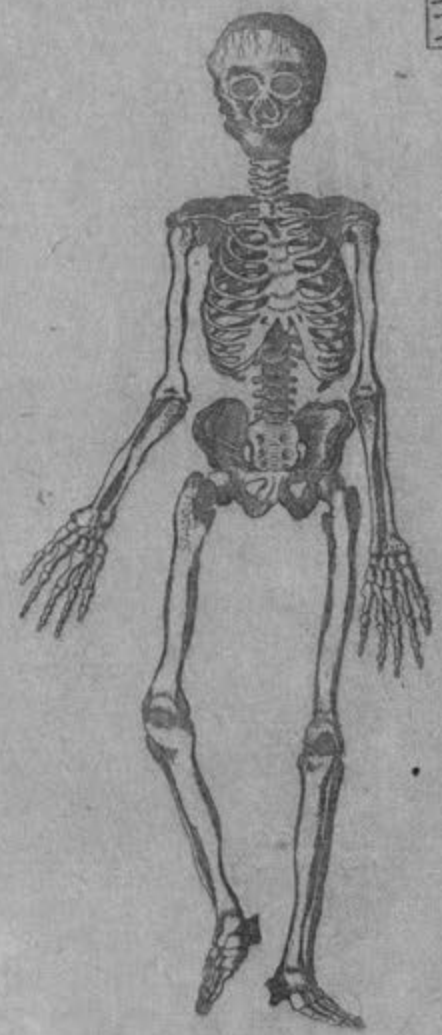
イ筋首

ロ筋腹

ハ筋尾



西歐堂鑄



風雲堂藏

○第五十一圖 全軀骨骸

○第五十二圖 見卵漸成胎

一卵有大小

二可成卵之卵

三至二十五日之胎兒

其造構未備故形貌亦畧

胞衣
胎兒

四四十日之胎 諸肢節可畧辨

五二月或二月餘之男胎 其頭大與體不相稱而諸骨未全成

六三月之胎 諸骨畧備

Kitasato Memorial Medical Library